

第2回厚生常任委員会会議録

- 1 開会日時 平成28年2月17日（水）午前9時0分
- 2 閉会日時 平成28年2月17日（水）午前10時54分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
5番 丸山 明君 7番 原田 素代君 11番 福木 京子君
13番 岡崎 達義君 15番 小田百合子君 17番 金谷 文則君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者
市 長 友實 武則君 副 市 長 内田 慶史君
市民生活部長 新本 和代君 保健福祉部長 石原 亨君
保健福祉部参与 岩本 武明君 赤坂支所長 正好 尚昭君
熊山支所長兼 田中 富夫君 吉井支所長 荒島 正弘君
市民生活部参与 市 民 課 長 作本 直美君 協働推進課長 青井 陽子君
環 境 課 長 黒田 靖之君 社会福祉課長 国正 俊治君
子育て支援課長 国定 信之君 健康増進課長 谷名 菜穂子君
介護保険課長 藤原 康子君
- 7 事務局職員出席者
議会事務局長 富山 義昭君 主 事 青井 久君
- 8 協議事項 1) 平成27年度事業の進捗状況について
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午前9時0分 開会

○委員長（原田素代君） 皆さんおはようございます。

ただいまから第2回厚生常任委員会を開会いたします。

開会に先立ちまして、市長の御挨拶をお願いします。

○市長（友實武則君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、市長。

○市長（友實武則君） 皆様おはようございます。

今日は、大変御多忙の中、第2回の厚生常任委員会をお開きいただきましてありがとうございます。

なお、今回は、執行部の都合で時間を繰り上げての開催とさせていただいております。どうも御迷惑をおかけして申しわけございません。

きょうの委員会で協議する案件でございますけども、平成27年度事業の進捗状況及び3月の定例市議会で上程予定の予算等たくさんの案件ございますので、これらを御報告させていただくことにしております。

また、その他の案件も準備しておりますので、御協議よろしくお願いを申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

それでは、最初に議長のほうから御報告をいただきます。

○議長（金谷文則君） 委員長。

○委員長（原田素代君） 金谷議長。

○議長（金谷文則君） ちょっと時間をとらせていただき済みません。

実は御報告なんですが、この間10日の日に山陽新聞にも載りましたが、東備の三市議会の議長が、いろいろ議長会の中で顔を合わせるたびにちょっと地域で何か問題があることとの意見の交換会なんかを始めたらよかろうというような話が出まして、それはいいことだということでこの間赤磐の市議会の議長室のほうへ来ていただきまして、正式に3人で連絡会をしようということで。何かそこで出てきた話題につきましては、それぞれの所管の委員会とかそれからそれぞれのところに必要なことがありましたら皆さんのほうにまた御報告をして、御検討いただきたいというふうに思いますので、第1回目ことができましたということの御報告をさせていただきます。よろしくお願いたします。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

それでは、これから協議に入らせていただきます。

丸山委員はちょっと遅延させてるそうですが、間もなく到着されるということです。

じゃあ最初に、平成27年度事業の進捗状況についての執行部の御説明を求めます。

○介護保険課長（藤原康子君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、藤原課長お願いします。

○介護保険課長（藤原康子君） 済みません。保健福祉部の資料1ページをごらんください。介護保険課より報告させていただきます。

昨年度策定いたしました第6期介護保険事業計画で地域生活支援の推進を掲げております。単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症の高齢者が増加する中、高齢者が地域のつながりや生きがいをもちながら暮らしていくためには医療、介護のサービスの充実を図るとともに、日常生活を支援する生活支援サービスの体制を図っていくことが必要となります。地域包括ケアシステムの準備の一つとして第6期介護保険事業計画より従前の包括的支援事業の枠組みに地域ケア会議の充実や在宅医療・介護連携の推進、認知症施策の推進、生活支援サービスの体制整備等が新たに加わりました。

今回の報告は、まず1番の在宅医療・介護連携推進事業についてです。

疾病を抱えても自宅等の住みなれた生活の場で療養し、自分らしい生活が送れるように平成25年度から健康増進課で実施しておりました在宅医療連携推進事業を平成27年度から介護保険課の地域包括支援センターが担当し、実施しております。平成27年度の主な取り組みは資料のとおりですが、市が地域の医療、介護の関係機関、関係団体等と協力して、地域の医療、介護関係者による会議の開催、在宅医療、介護関係者の研修等の取り組みを実施してまいりました。

本日お手元に配付いたしましたこのピンク色のリーフレットなのですが、豊かな人生を送るために考えてみよう私のエンディングというリーフレットを協議会で協議し、作成いたしました。11月に行いました講演会で簡単に説明いたしまして、参加した方々にも配付させていただきました。このリーフレットは介護保険課の窓口はもとより、市内の医療機関、歯科医院、訪問看護ステーション、そして居宅介護支援事業所に配付させていただいております。自分の人生の最終段階をエンディングと言うことがありますが、これを考える一つの材料となるのがこのリビングウィルです。終末期の医療行為を決めるだけではなく、できるだけ自分らしい人生を最期まで送れるように元気なときから自分のエンディングについて考えていただけたらと作成をさせていただきました。

平成28年度から在宅医療・介護連携推進事業として、在宅医療、介護の課題の抽出や対応、地域の住民への啓発、関係者の研修等を行い、引き続き在宅医療・介護連携の推進に取り組んでまいります。

続いて2番なのですが、地域会議推進事業についてです。

地域包括ケアシステムを構築するための手法として地域ケア会議を位置づけられております。これまで地域での支援体制について小地域ケア会議を開催してきました。平成28年度から個別ケースを検討する個別地域ケア会議を開催し、医療、介護等の専門職を初めとした多様な関係者に出席していただきまして地域課題の把握やケアプラン等について検討を行い、このケ

アマネジメント支援を通じて介護等が必要な高齢者の住みなれた住まいでの生活を支援してまいります。今後、住民の福祉意識やケアマネジャーの能力の向上にも努めてまいります。

また、今後社会福祉協議会と連携を持ちながら地域の連携強化に向けた地域ケア会議の設置を進め、住民・保健・医療・福祉等の関係機関が協働しながら問題解決を図る地域ネットワークの構築を目指してまいります。

なお、平成27年度には、来年度から個別地域ケア会議を毎月実施する予定にしております。この会議についての内部検討を行い、会議のアドバイザーともなる訪問看護師、薬剤師、栄養士、包括支援センター職員に理学療法士がおりますので、その理学療法士も含めこのケア会議を試行的に4回程度開催し、会議をどのように有効に進めていくか、資料の提示、会議の進め方について等検討し、来年度の準備をしております。

最後に、資料には掲載しておりませんが、介護保険事業計画の中に地域密着型サービスの充実の基盤整備について報告させていただきます。

計画には小規模多機能型居宅介護を山陽地域に平成28年度に整備として掲げておりましたが、この平成27年度には事業所の公募をかけさせていただいておりましたが、事業所の内定までには至りませんでした。平成28年度の整備予定はなしということで、平成28年度につきましては、計画に沿って引き続き必要なサービスの量の確保に努めてまいりたいと思います。

以上、報告です。

○委員長（原田素代君） 大変立て板に水なので、皆さん認識に至るところまでいってるかどうか。どうぞ、わからないところはいろいろお聞きになっていただいて、29年から新体制を構築しようという試みに向けてのいろいろ試行錯誤をやったださってるというのが前提のお話なんだそうですが。

最初に、在宅医療・介護連携推進、でもう一つが地域ケア会議推進という2つの柱が報告されました。大変わかりにくいので、システムが変わるということで、議会もついていけなくて。新しいよそから聞く事業も次々に入ってくるので、それと赤磐市はどういうふうにかみ合っていくんだろうとか、いろいろ疑問も多いと思うんですが。

とりあえず、きよの執行部のほうの提案説明についての御質疑がありましたら。

○副委員長（福木京子君） いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員どうぞ。

○副委員長（福木京子君） 今、原田委員長が言われたように、平成29年から介護保険、新たにいくんですけど、その前に要支援の1、2か、それから介護保険から外れたことについては独自に市がやっていって、今いろいろとされてきてるんですが、やっぱりわかりにくいんですよ。それで、いいことされているからこれはすごいなと思って。参加してる人は大分理解が、ここ、広がってきてると思う。それ以外はなかなかわかりにくいというんか、市民から健康づくりとか、何かそんなグループでやってるというのは耳に入ってきたりして、いい取り

組みを少しずつ準備されてるなというのはわかるんですけど。ちょっとそれがわかりにくいなと。28年度が準備期間ですよ。29年から新たに出発して。その辺をもうちょっとわかりやすく説明していただけたらなと。

それから、もう一つ、今小規模多機能が山陽地域では公募したけどなかったというのは、どういうふうに分析をされとんかなと。熊山も小規模多機能とか、それから29年には吉井でもという計画もある中で、現時点ではどういうふうに分析されとんかなというふうに思うんですが。

○介護保険課長（藤原康子君） はい、介護保険課藤原です。

○委員長（原田素代君） はい、藤原課長、お願いします。

○介護保険課長（藤原康子君） 済みません、1点目の福木委員さんからの御質問の分に関しては、きょう御報告させていただきました在宅医療の部分と地域ケア会議では、システムをつくる中でいろんな会合をするという意味合いで、ちょっと質問から少し離れますけれども、医療と介護が連携をしていって顔が見える関係ということをどのようにやっていくかということ、平成25年から拠点事業というものを健康増進課から引き継いで介護保険課がやってきたということを1番目に報告させていただきました。

そして、地域ケア会議につきましては、そういうシステムをしていく中、1人の利用者さんなりとか地域の問題とか、民生委員さんとか地区の役員さん方とも話をして、小地域というのはその地区地区でもあってもいいし、山陽団地というその地域というか、でもいいし、そういうところで話し合いをしてきて、いろんな課題を話し合ったというところですよ。

で、先ほど御質問にありました要支援1、2についての平成29年度からということにつきましては、新しい総合事業のお話かなと思うんですが、そのお話を進めさせていただいていいですか。

○委員長（原田素代君） どのぐらいのボリュームになると思ったらいいんでしょうか。要するに、また別途機会を持って説明をお聞きしたほうがいいのか、今ダイジェスト版で説明ができそうならそうしていただいてもいいし、ちょっと判断をそちらで。

○介護保険課長（藤原康子君） はい。

○委員長（原田素代君） 藤原課長。

○介護保険課長（藤原康子君） 簡単にだけ資料をつくらせていただいたんですが、配らせていただいてもよろしいでしょうか。

○委員長（原田素代君） はい、そうしてください。

石原部長、きょうは何時が定時ですか。石原部長、何時で終了予定ですか。12時半ぐらいまでいけるんですか。

○保健福祉部長（石原 亨君） 午前中ということで。

○委員長（原田素代君） 一応じゃあ。

○副委員長（福木京子君） 簡単にでもね。

○委員長（原田素代君） うん、そうなんです。きょうはセッティングが詰め込んでるものからですから。

○介護保険課長（藤原康子君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、お願いします。

○介護保険課長（藤原康子君） それでは、済みません。まだ配付していただいている途中ではございますけれども、総合事業等生活支援サービスの充実ということで、要支援1、2の予防給付にあります訪問介護、通所介護はどのように移行するかというのを1枚目に書かせていただいております。

皆さん御承知のように、平成27年度の介護保険法の改正でこの介護予防、要支援1、2の訪問介護と通所介護の2つのサービスが平成29年度の末までの3年以内に、うちのほうは平成29年4月にはこれに関してのサービスを整えていこうということで動いております。簡単には、こちらの予防給付に関しての訪問介護、通所介護につきましては、この1枚目の資料の地域支援事業のほうへ移行してまいります。

介護度的にというか、身体介護等が必要な方々につきましては、今までの現行の既存の訪問介護、ヘルパーさんの事業が受けれます。また、下段にあります通所介護につきましても、そういうように身体介護的なものとか等々が重い方に関しては、既存の通所介護事業所でデイは受けれるということなんです。

ただ、とても安定で自分の中でADL、日常生活の行動がスムーズな方々で要支援1、2にかかられている方、そして今後基本チェックリストという項目があるんですが、その中でひっかかった方々というので、介護度は持たれないんだけど介護予防をしっかり進めていかれる方については、NPOとか民間事業所等による生活支援が入ったりとか、そういう先ほど福木委員が言ってくださいましたそういう地域での集まる場によって自立支援を図っていくということで、いろんな場づくり、場所をつくっていくということで地域支援事業のほうに移行してまいります。

資料の2枚目、3枚目のほうに国が示した資料で、まだ赤磐市版はできておりませんので、国の資料をきょうつけさせていただきます。

先ほどちょっと言いました2枚目にあります現行の訪問介護相当とか3枚目にございます現行の通所介護等というのがここに書いてます対象者とかサービスの提供の考え方、これについては赤磐市としては現在決まった段階ではございませんけれども、こういう表に示してらっしゃる対象の方は現行のサービスが受けれるようにと検討してまいりたいなと思っています。ただ、多様なサービスについて緩和した基準によるサービスについては、現在内部で大変検討させていただいております。訪問型のサービスにつきましては、シルバー人材センターとか社会福祉協議会と話し合いを持ち、内容等どのようなサービスをしていただくか、どんな方を対

象にしていくかとかを検討しております。

また、通所サービスにつきましては、平成27年度デイサービス事業者との話し合いの場を持っております。市としてどのように進めていくか内部検討も行いながら、対象者とか内容について検討しているというのが今の現状でございます。事業所の意見も聞いていかないと、これが介護保険の給付から地域支援事業に移っていきます。じゃあ、計画をしてもそれをしていただく事業所とか場がないとこれは続いていかないし、介護保険も下から崩れていきますので、本当にどのようにしたらいいかというのは内部も検討しながらその事業所、人等にも、シルバーとか社会福祉協議会ともちょっと内部検討し、あらかじめ大枠が決まってきたら少し輪を広げながら検討して、こういうことにどんなだろうかということ素案を投げかけて話をし、事業については本当に継続したもので皆さん住民の方々に利用していただけるように思っております。

平成28年度というか、倉敷はこの3月からとお聞きしておりますけれども、4月からは真庭市と新庄村と西粟倉村が、規模の大きいところ小さいところではございますが、やっていくということを聞いております。もちろん、情報をいろいろと教えていただくこと、ここは悩んだこと等を教えていただきながら、自分たちも検討してまいりたいと思います。その進捗状況につきましては、28年度、この場で随時報告させていただきながら、こういうことを検討しているということは報告させていただこうと思っております。が、今の現状です。

そして、場ということで先ほど福木委員さんが言ってくださったと思うんですが、100歳体操とかということでやや元気な方々の集う場で元気になっていただく、自立支援をということで現在運動支援ボランティアの方、認知症の方に関しては認知症支援ボランティアの方の育成をして、いろんな地域でのカフェの活動とかっていう場づくりに関しましても今取り組んで、それを広げていきたいという活動をさせていただいております。

以上が1点目の答えです。

2点目の小規模多機能のほう、引き続きよろしいでしょうか。

○委員長（原田素代君） はい、お願いします。

○介護保険課長（藤原康子君） 小規模多機能につきましては、平成28年度介護保険事業計画のほうにつきましては、山陽地域と掲げておりましたので、公募のほうを6月にさせていただきました。内情的には1店事業所のほうが動いてはくださっていたんですけども、土地の基盤とかああいう基盤整備とかが、本当は計画書を、ほぼあすぐらいに出すというぐらいまでいったんですけども、1事業所。そういう地盤整備というんですか、そういうものが整わなく、28年度の整備にはちょっと間に合わないだろうということで、取り下げられました。窓口でも話し合いました。それでは28年度の整備はいかないのでということで、上司にも御相談をさせていただき、2回目の公募ももう一度させていただいたんですけども、やはりちょっとそこら辺あたりで、何がというわけではないんですけども、公募に手を挙げられる事業所が

なく、きょうの報告に至りました。

先ほどのお言葉にもありましたけれども、平成29年度の整備は計画書には吉井地域、熊山地域を掲げさせていただいております。ですので、28年は山陽地域には2カ所小規模多機能施設がございますが、やっぱり人口規模とかの兼ね合いで山陽地域に対しても必要かと思しますので、28年度につきましてはその3地域、吉井、熊山、山陽地域の小規模多機能施設に関しまして整備をしていただくかということで、公募のほうかけさせていただく予定にしております。

○委員長（原田素代君） 今年度、3地域を一遍に。

○介護保険課長（藤原康子君） 来年度、28年度。

○委員長（原田素代君） 28年度ね、一遍にやるんですね。

○介護保険課長（藤原康子君） 公募をかけさせていただきます。

以上です。

○委員長（原田素代君） はい、わかりました。

○副委員長（福木京子君） よろしいです。

○委員長（原田素代君） いいですか。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（原田素代君） ほかに今の御提案に対する御質疑をお願いします。

○委員（丸山 明君） いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員、どうぞ。

○委員（丸山 明君） 済みません、おくれました。大変失礼しました。

済みません、ちょっととんちんかん言うかもしれないんですが、訪問介護と通所介護で地域支援事業をやるということで、これをやる主体は既存の訪問介護事業所、それから民間とかNPOとか住民ボランティアとかというふうに具体的に担っていただくところがとっても大事だと思うんです。役所が旗振るのはできるんですけども、さっきも応募がなかったというふうなことも言われてたように、小規模多機能のこともちょっと言ったんですけど。

要するに、そういう地域のボランティアをやろうという人たちは若い人もそうですけども、年とっても70になっても意欲のある人、健康な人ってあるんですね。そういう地域を本当に巻き込んでいかないと、こういう介護事業にしる、通所介護、訪問介護にしる、担っていただく人がとっても大事なんで、そこをどうやって引っ張り出してくるかというか、機能させていくかということが、すごく僕はキーポイントだというふうに思ってるんです。そのあたりについてちょっと感触、どういうふうな方法でそういう人たちをこの事業を現実のものとするためには、熊山でも吉井でも山陽団地でもそういう人たちが出てきて機能して、初めてお掃除してもらえたり、介護してもらえたり、運動に参加してもらえたりという活発な活動につながっていくと思うんですね。そこを育てることが大変だと思ってるんで、ちょっとそのあたりのイメージを教えてもらえたらと思って言いました。

○介護保険課長（藤原康子君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） 藤原課長。

○介護保険課長（藤原康子君） ありがとうございます。

私どももそういうように行政がとかな今の事業所がだけとは思っておりませんし、本当にいろいろボランティアをすることによって介護予防と言ったらおかしいですけど、介護予防にもつながっていくと考えております。

それで、今年度は先ほど申しました支援ボランティアの育成で認知症と運動支援ボランティアを二十数人ずつ育成してまいりまして、その活動ということで、認知症につきましては脳のいきいき健康教室というのをやっております、そういうサポートに認知症の方に来ていただき、そしてもう一つは地域のカフェのところのお手伝い等をしていただいております。そして、運動支援ボランティアの方々には100歳体操の普及ということでバックアップしていただいております。

来年度等につきましても、その方々だけでは足りないというところがございますので、来年度も支援ボランティアの育成ということで予算計上もさせていただいているんですが、2クールそういうものをさせていただけて、そういうボランティア、そしてなおかつ先ほど申された例えば訪問型の現行ではなくて住民主体だとか訪問型サービスの緩和した基準によるサービスにバックアップしていただけるのがシルバー人材センターとかボランティアの方々も入っていただけるなと思っておりますので、そういうことも視野に入れたボランティア育成、ないしはそれに関してはシルバー人材センターともお話をしているんですが、そこに登録されてる方にぜひともその研修にも来ていただいて、よりそこを知識を膨らませていただいて、人のケアのところに入っていただくよということの話もシルバー人材センターともさせていただき、人をふやしていくということはしております。

そして、そういうことが大切だということも皆さんに知っていただかなくちゃいけないということで、先月御報告させていただきました協議体のお話なんですけれども、ああいう中にはそういう地域のケアマネさんとかいろんな方々にも入っていただいて、今したいことはお話をさせていただいたんですが、今後もっといろんなことをしていくためには視野も広げていかなくちゃいけないので、協議体の中でその課題に対して話し合い、こうやったらいいんじゃないかという意見をいただきながら進めていきたいと思っております。本当に一遍にはふえてはまわらないとは思いますが、そういうように研修会をしたりとか、今している育てたボランティアの方の活動の場を広げていっていいねと思っただけのように、地域の方にも私もというような思いで活動を広げていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。

○委員（丸山 明君） はい。

はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君） わかりました。とってもそういう働きかけをしてる、それからシルバー人材センターにお知らせをしたり啓発活動をしてるというのはよくわかりました。

僕が実感のほうでいいますと、自分の生活実感でいうと、うちの近所もひとり暮らしの老人とか高齢者がふえて、いろんな問題が確かに出てきております。で、どっちかというところとああいいう住宅団地というのは閉じこもり型の家庭生活を営んでいる人がとっても多いんで、気づく人がいらっしやって、何とか自分たちでボランティアとして地域の元気が出るような活動をやろうよというふうな人たちも若干見受けられるんです。で、そういう人たちの具体的な動き、例えば自分たちでお弁当をつくって近所の老人たちに配って、年金生活者に配って元気になってもらおうよと、そういうことが自分の喜びでもあるんだというふうなことをおっしゃる方もいらっしやるんで、そういう人たちをどうやって見出していって、それを結びつけるかというところがとっても大事なことだっというふうに思うんです。行政が税金使って何かやるっていうのはもちろんできることなんですけど、税金を使わないで既に地域で気づいて動き出してる人たちというのが現実にいるんで、その人たちをどう行政として知って、うまく使うというか、力にしていこうということが非常に僕は大事な問題だなというふうに今感じております。これ生活の中で実感で感じていることなんですけど、山陽団地にも実は何度も言うんですけども、5階建てのとてもひとり暮らしでひっそりと目立たない人たちがいらっしやるんですけど、その人たちもじいっとしてただけではなくて何か動きをしたいというふうに言われてる人たちがいるんで、そういうことを何とかうまく引っ張り出す方法はないのかなというふうにちょっと考えてたところなんで、ぜひそういう方向で進めていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。

○委員長（原田素代君） 要望でよろしいですか。

○委員（丸山 明君） はい。

○委員長（原田素代君） ほかに皆さんからございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そしたら、1点、もう一度小規模多機能の公募が28年度は3地域一遍にするとということなんですけど、この場合国の補助金が3,200万円つくそうなんですけど、3つとももし手が上がった場合、国は一括で赤磐市に3,200万円掛ける3、補助金が出ると思ってるのでしょうか。

○介護保険課長（藤原康子君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、藤原課長。

○介護保険課長（藤原康子君） その点につきましては、これが地域医療介護総合確保基金という事業なんですけれども、以前第6期の事業計画をするに当たってどのようになるかなというのを聞かせていただいたことがありますけど、そのときの集まったもので県のほうが決めら

れてくるので、3つ挙げたからといって3つ通るとは断言はできないと言われていますが、市としてはもちろん事業所で各地域に、3地域でございますけれども、事業所が挙げればそちらに関しては資料を整えて県のほうへ出させてはいただこうと思っております。

以上です。

○委員長（原田素代君） もう一つお尋ねしますが、その場合どういう順番を準備されるんですか。要するに、3つは無理だとなったときに、まず優先はどこからやろうと思っただけですか。

○介護保険課長（藤原康子君） はい、委員長、介護保険課藤原です。

○委員長（原田素代君） 藤原課長。

○介護保険課長（藤原康子君） 済みません。

3つ出すといたら県のほうも委員長おっしゃられるように優先順位をとおっしゃられるだろうなと私も思います。その中でなりますと、地域性というところの本当に赤磐市としてどこを優先していくかということももちろん一つあると思うんですが、もう一つは事業所が上げられてきたその中身の継続で補助金を出すわけですから、継続性のしっかりした基盤のある事業所であるかということも一つあるかと思えます。

ですから、そういうことに関して市役所内の地域密着型の施設に関して議論をさせていただく会がありますので、そこでさせていただき、その後その意見に関しましては介護保険課のほうでは介護保険運営協議会という意見をお聞きする諮問機関がございますので、そこでも審議して、本当にその時点で何をどれを優先していくかということは検討してまいりたいと思います。どこをとということに関しまして今はちょっとお訴えにはならないかと思えます。

○委員長（原田素代君） はい、わかりました。ありがとうございました。

以上。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） ないようですので、次に進めてください。

はい、石……。

○保健福祉部長（石原 亨君） 進捗状況は以上です。

○委員長（原田素代君） はい、じゃあ、3月議会のほうお願いします。

○市民生活部長（新本和代君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） それでは、3月定例議会に提案させていただきます議案について御説明をさせていただきます。

まず、人権擁護委員の推薦についてから御説明をさせていただきます。

○委員長（原田素代君） 市民生活部です。

○市民生活部長（新本和代君） はい。

市民生活部資料1ページをごらんください。

今回お願いします方は、お名前が政田町子さんで赤磐市西軽部にお住まいの方でございます。年齢は69歳で現在1期目でございます。平成28年6月30日をもって任期満了となります。略歴につきましては資料1ページに、また2ページには人権擁護委員さんの一覧表を載せておりますので、あわせてごらんください。

政田さんは人権擁護活動に理解が深く、相談や啓発について熱心に活動されており、健康面でも心配がないため再任を考え、3月定例議会に提案させていただき予定でございますので、よろしくお願いたします。

次に、平成27年度一般会計補正予算につきまして御説明をさせていただきます。

市民生活部資料3ページをごらんください。

まず、一般会計の補正予算でございます。

市民課の関係でございますが、歳入では、国民健康保険基盤安定負担金、これは保険者支援分と保険税軽減分に対する交付金でございます。交付金額が確定になりましたので、国と県から入ってまいります。それぞれ増額補正をさせていただきます。また、後期高齢者医療保険基盤安定負担金につきましても交付額が決定いたしましたので、増額補正をさせていただきます。

次に、歳出でございますが、国民健康保険特別会計への繰出金ということで、国、県から歳入されたものを市の負担分を合わせまして国保の特別会計また後期の特別会計へ繰り出しをさせていただきますのものでございます。

次に、4ページをごらんください。

平成27年度国民健康保険事業勘定の補正予算でございます。

今回補正をさせていただきものは、国からの補助金の確定と医療費が予想以上に増加し、医療費が不足するというに伴うものでございまして、増額補正をさせていただきます。国保事業勘定では歳入歳出それぞれ1億4,776万円を増額させていただき、予算総額では61億6,023万2,000円となります。

まず、歳入でございますが、主なものとしたしまして、1番目の国庫支出金の療養給付費等負担金でございます。これは、医療費に対する国の補助金でございます。1億4,313万9,000円が増額になるということでございます。

それから、2番目の財政調整交付金でございますが、普通調整交付金、これは一般被保険者に係るもので、市町村間における財政力の不均衡を解消するための国の補助金でございます。補助金額の決定によりまして8,229万5,000円を増額補正するものでございます。

3番目の前期高齢者交付金5,484万1,000円の減額補正につきましても、交付金の額の決定によりますものでございます。

それから、下の方の9番目の一般会計繰入金の増額補正でございますが、これにつきましても法定分でございますが、先ほど申しましたように一般会計から国民健康保険基盤安定負担金の額の確定によりまして国、県、市の持ち分を合わせまして歳入となるということでございます。

また、繰入金の中の職員給与費等につきましては、人事院勧告による給与改定や徴収嘱託員の共済の実績見込みによりまして119万8,000円の減額で、繰入金額総額では5,930万8,000円の増額補正でございます。

次に、歳出についてでございますが、5ページをお願いいたします。

歳出につきましても、大体支出先の金額が確定したことによりまして補正をさせていただきます。

主なものでは、3番目でございますが、保険給付費の一般被保険者療養給付費2億8,000万円でございますが、療養給付費が不足するという見込みでございますが、増額補正をお願いするものでございます。

そのほかの補正につきましては、額の決定や決算見込みによりまして補正予算を計上させていただいておりますので、よろしくをお願いいたします。

続きまして、6ページをお願いいたします。

後期高齢者医療特別会計補正予算でございます。

歳入歳出どちらも1,339万円を増額して、予算総額では5億1,296万6,000円となります。

歳入では、1番でございますが、後期高齢者の保険料でございますが、後期の保険料の納付方法は特別徴収と普通徴収でございます。保険料の見込みが全体で500万円増額になるということで補正をさせていただいております。

2番目の基盤安定繰入金でございますが、国保と同様、後期の保険料につきましても減額いたしております。その減額いたしたものにつきまして県と市で負担することで523万1,000円の増額をさせていただいております。

歳出についてでございますが、1番目の後期高齢者医療広域連合納付金でございますが、先ほど申し上げました保険料や基盤安定繰入金等の確定によりまして1,259万円の増額補正をいたすものでございます。

○委員長（原田素代君） 済みません、とりあえずここで一度切って質疑を……。

○市民生活部長（新本和代君） はい。

○委員長（原田素代君） 今、市民課のほうからの3月議会に提案される議案の説明ですが、何か御質疑がありましたらお願いします。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そうしましたら、7ページから続いてお願いします。

○市民生活部長（新本和代君） はい、済みません。

それでは、続きまして7ページをお願いいたします。

協働推進課でございますが、歳入は県補助金、住宅新築資金の償還事務に係る補助金でございます。交付決定によりましてわずかではございますが補正をさせていただきます。

歳出につきましては、臨時職員賃金の決算見込みによりまして減額をさせていただきます。

次に、8ページをお願いいたします。

環境課でございますが、歳入では岡岡山市町村振興協会から協働のまちづくり推進助成金の交付決定によりまして25万円の増額補正でございます。

それから、歳出でございますが、入札執行残や決算見込みによりまして減額でございます。

主なものでは4款衛生費の清掃総務費のし尿処理施設運営負担金でございますが、組合負担金の額が決定しましたので600万円の減額をさせていただきます。

それから、塵芥処理費でございますが、環境センターの維持管理、収集、焼却、処分などに係る費用でございます。需用費では、焼却燃料費でございますが、灯油の単価が昨年より下がったことや電気代など決算見込みによりまして需用費全体では1,389万5,000円の減額、また委託料では、入札執行残、今後の見込みを含めまして委託料全体では2,040万4,000円減額させていただきます。

○委員長（原田素代君） では、とりあえずここまででお願いします。

委員の皆さんで何か御質問がありましたらお願いします。

○副委員長（福木京子君） いいですか。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員、どうぞ。

○副委員長（福木京子君） ちょっと前の分というんか。

○委員長（原田素代君） いいですよ。

○副委員長（福木京子君） ちょっと聞いてったほうがいいかなと思って。

後期高齢者の関係で市長も出られてるんですが、ニュースでは来年度、後期高齢者のあれが上がるということで、山陽町のこの金額を見た場合、やっぱり上げざるを得ない状況なんですか。それは県全体で考えていくことなんですが、この補正予算との関係なんかも含めて、やっぱり値上げせざるを得ない状況なんでしょうか。ここで余り中を言ってもいけませんけど。事前審査になるから、これって余り言わんほうがええですね。

○市民生活部長（新本和代君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） 福木委員さんが言われました後期高齢者の保険料につきましては、市独自のものではなくて県全体ということで、これはもう決まっております、赤磐市が上げるとか下げるとかということではございませんので、御理解のほうよろしくをお願いいたします。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） ほんなら、当初予算にそのことが出てくるということですね。その説明がね。

○市民生活部長（新本和代君） はい。

○副委員長（福木京子君） はい。

○市民生活部長（新本和代君） はい、そうでございます。

○委員長（原田素代君） ありがとうございます。

ほかにありましたらお願いします。よろしいですか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そうしましたら、じゃあ、次の市民課のほうにお願いします。

○市民生活部長（新本和代君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） それでは、続きまして、3月議会に上程させていただきます28年度の当初予算について、新規事業や重点事業について御説明をさせていただきます。

9ページをごらんください。

まず、市民課の関係でございますが、1番目といたしまして、特定健診未受診者対策でございます。

特定健診の受診率向上及び被保険者の健康に関する意識づけのために未受診者に対する電話勧奨やダイレクトメールなどを活用して勧奨を行い、健診が始まって早い時期から効果的なフォローアップを行うなど未受診者に対しての健診、健康への意識づけをしていくこととしております。また、今年度、日曜健診を実施いたしておりますが、受診された方が予想以上に多かったこともありまして、引き続き28年度も行う予定としております。

2番目といたしまして、データヘルス計画に基づく保健指導事業でございます。

27年度に策定しております赤磐市国民健康保険データヘルス計画の分析から、特定健診を受診された方で異常があった方も医療機関を受診されておらず、放置されてる状況も判明しておりますので、28年度には健康指導事業といたしまして健診異常値放置者への受診勧奨や生活習慣病指導を実施することとしております。重病化を予防し、医療費の適正化につなげてまいりたいと考えております。

3番目といたしまして、後発医薬品、ジェネリック医薬品の通知の実施でございます。

昨年度から実施しておりますが、差額通知をさせていただくことで切りかえてくださる方もおられます。効果もあらわれておりますので、平成28年度も同様に実施してまいりたいと考えております。

次に、協働推進課でございますが、まず1番目といたしまして、男女共同参画基本計画の策

定事業でございます。

第2次男女共同参画基本計画、これは平成24年度から平成28年度の5カ年計画でございます。28年度で第2次が終了するため、第3次男女共同参画基本計画、29年度から5年計画を策定いたします。

次に、2番目といたしまして、市民活動実践モデル事業でございます。

これは新規事業でございます。市民活動団体などの皆様から地域課題の解決につながる事業を提案いただき、市と目的を共有して協働で事業を実施するものでございます。今年度に提案をいただいております事業につきましては、もうすぐでございますが、2月中には審査をして、今年度中に事業を決定いたします。平成28年度の早々には事業を実施していただくこととなっております。

次に、3番目でございますが、地区集会所新築等補助金交付事業でございます。

昨年9月に要望を取りまとめまして、その後現地確認を実施いたしまして、28年度には11地区に補助金を交付する予定としております。その中の1件、1地区では集会所の新築も数年前から計画しておられたところ、今年度1地区新築をされるということで補助金の対象にしております。また、厚生常任委員会で視察をしていただきました沓石のコミュニティハウスもこの中に含まれておりますのでよろしくお願いいたします。

次に、環境課でございます。

リサイクルプラザの拡充ということで、環境センター内のリサイクルプラザは平成27年2月に事業開始してから1年になります。来場者もふえておりますし、また市民から持ち込まれる不要品なども徐々にふえております。持ち込まれた品物に手を加え、無料や有料で譲り渡しております。28年度には環境学習講座なども開催し、市民の環境意識の向上とそれからごみ排出量の削減につなげてまいりたいと考えております。

以上、市民生活部からでございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（原田素代君） そうしましたら、委員の皆さんのほうから今のところで御質疑をお願いいたします。よろしいですか。

○副委員長（福木京子君） なさそうなので、一つだけ。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員、どうぞ。

○副委員長（福木京子君） 9ページで市民課で健康づくりでいろんな提案でいいですが、ごめん、ちょっと聞いてもええかな、透析。透析がふえてきたりしとるでしょう。私新聞なんかも見てたら、やっぱそれは早目に手を打って塩分の少ない食生活とかいろいろその前の取り組みを大分力を入れてきてるとこもあったりで、多分赤磐市もそうなんじゃと思うんじゃけど、その辺のあれは計画は余り入ってないですかね。ちょっと力入れてやるとかという。

○市民課長（作本直美君） はい。

○委員長（原田素代君） 作本課長。

○市民課長（作本直美君） 国民健康保険のほうから言いましたら、今のデータヘルス計画の中でそういう分析も大分出てきておりまして、そういう未然に防げる方に対してのこちらからの保健指導、そういうことをこの②のあたりで考えておりまして、通知を送るですとか医療での勧奨ですとか、要は生活習慣病に対しての予防対策に重点を置いております。

市民課としては以上でございます。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） はい、委員長、健康増進課谷名。

○委員長（原田素代君） はい、谷名課長、お願いします。

○健康増進課長（谷名菜穂子君） 健康増進課のほうからは、市民課と一緒に特定健診とかを実施しているわけですが、特定健診の中に腎機能検査のほうを特別に盛り込んで現在実施しております。そういった方、やはりおっしゃられるように透析というのは非常に医療費も高くつきますし、一旦透析をし出したらその人自身が本当に大変生活に不自由をされるようなことも出ております。そういったことで、予防活動のほうを腎機能検査をもとにいたしまして、保健師や栄養士のほうが積極的にデータが悪かった方に対して勧奨しまして、特定健診の後、フォローとしまして医師会病院等ともタイアップしまして健康教室のほうを何回か実施しております。本当に地域の先生方も非常に御協力していただきまして、その辺が医療連携のよかったところなんです、健康教室も参加者が50名とか結構いい数字で実績が上がっております。

以上です。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（原田素代君） そうしましたら、あと全体の市民課の分で御質問はよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） それでは、この後10時まで休憩をさせていただきます。

午前9時51分 休憩

午前10時0分 再開

○委員長（原田素代君） 皆さん、お集まりなので、休憩前に引き続きまして会議に戻ります。

それでは、引き続いて執行部のほうからの提案をお願いします。

○保健福祉部長（石原 亨君） 委員長、保健福祉部長石原。

○委員長（原田素代君） はい、石原部長。

○保健福祉部長（石原 亨君） それでは、保健福祉部の資料をごらんください。

3月議会提案予定の案件について説明をさせていただきます。

まず、条例の一部改正でございます。7件上げさせていただいております。

資料のページで2ページでございます。

まず、1点目でございます。

赤磐市赤坂福祉サービスセンター条例の一部を改正することについてでございます。

現在、赤磐市社会福祉協議会を指定管理者として管理運営を行っていただいております赤坂福祉サービスセンターの事業からホームヘルプステーション運営事業、こちらを削除するというものでございます。1月の本委員会で情報提供させていただきました社会福祉協議会の事業の見直しに伴いまして、28年4月1日からヘルプステーションを山陽事務所と吉井事務所に集約するということから本条例を改正するというものでございます。

それから、2点目でございます。

赤磐市国民健康保険熊山保健福祉総合センター条例の一部を改正することについてでございます。

こちらにつきましても、前条例改正と同様に社会福祉協議会の事業見直しに伴うものでございます。熊山保健総合センターの事業からホームヘルプ事業を削除するというものでございます。同時に、これまで改正ができておりました訪問看護部門、在宅介護支援部門についても削除し、整合性を図るというものでございます。

続いて、3点目でございます。

赤磐市乳幼児等医療給付に関する条例の一部を改正することについてでございます。

子育て世帯の経済的負担の軽減と子供の健康維持を目的としまして平成28年度から新たに高校生等を助成対象に加えることとし、保険診療に係る自己負担を3割から1割に軽減するというものでございます。条例の名称も赤磐市子ども医療費給付に関する条例に改めるものでございます。中学生以下の支給につきましては、これまでと同様といたしております。

続いて、4点目でございます。

赤磐市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正することについてでございます。

訪問看護ステーション業務手当につきまして、職員が休日、夜間に利用者からの緊急連絡に対応するため自宅等で待機する場合に支給されるものでございます。午前8時30分から午後5時15分までまたは午後5時15分から翌日の午前8時30分までの間、待機1回につき300円としているものを平成28年度から1,000円に改正するというものでございます。これは、他の訪問看護事業所との均衡を図ると同時に、あわせて職員の意欲高揚、こちらを図るものでございます。

続いて、3ページでございます。

5番目でございます。

赤磐市特定疾患援護費給付条例の一部を改正することについてでございます。

難病患者に対する医療等に関する法律の施行に伴うもので、公費医療の優先順位が難病医療が優先し、生活保護受給者にも受給者証が発行されるということとなりましたため医師の診断

書は不要となり、当該部分を削除するというものでございます。

続いて、6番目でございます。

赤磐市指定地域密着型サービス事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正することについてでございます。

改正前の条例につきましては、平成25年度に制定されております。このたびの改正は、国の省令改正に伴い地域密着型通所介護が新設されまして、平成28年度から市の指定に加えられることに伴い、本サービス事業に係る規定を追加するというものでございます。

続いて、7番目でございます。

赤磐市地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部を改正することについてでございます。

本条例改正につきましても、国の省令改正に伴うものでございます。介護予防認知症対応型通所介護について、平成28年度から運営推進会議の設置が義務づけられましたことに伴いまして、その規程を追加するというものでございます。

○委員長（原田素代君） ここでちょっと一度切りたいと思います。

委員の皆様の方から、条例の一部改正ですが、何か御質疑ありましたらお願いします。

○副委員長（福木京子君） 前ので。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 市長を評価しておきたいな、高校生までの医療費の無料化。一部1割負担が残りますが、出されて。これはすごいなど。それで、これは誇れる制度になるんじゃないかということで、県内の議員にもここを知らせたいなと思います。

ちょっとこれとは関係ないかもわかりません。子育て支援では力を入れてくださっていると。ほんで、奈義町が県下で相当力を入れてて、2月20日のNHKスペシャル、9時から、この奈義町の子育て支援の取り組みが放映されますので、ここでちょっと披露しておきたいと思います。一部なんか出るらしいです。2月20日、NHKスペシャル、9時からで、奈義町の子育て支援、ごめん、はい、別なこれはあれです。そういうことです。

○委員（丸山 明君） ちょっと、済みません。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員、どうぞ。

○委員（丸山 明君） ホームヘルプ事業を赤坂と熊山のほうから社会福祉協議会の業務内容の見直しに関連して削除するというふうになってるんですけど、もうちょっとそこら辺の方向性みたいなことを知りたかったもんですから。今、なぜ、見直しでこういうふうになったのかということなんですよね。もうちょっと聞きたかった。詳しく知りたい。

○委員長（原田素代君） はい、国正課長。

○社会福祉課長（国正俊治君） 前回の委員会のほうで社協がつくっている資料のほうをお配

りをしております。参考資料としてですが、社会福祉協議会としての方針がそこに書かれてあります。その内容で市のほうといたしましても南部の拠点、熊山、赤坂を山陽に集約することで管理者の配置が合理的になります。それから、南部のほうが介護のスタッフさん、ヘルパーさんの人員の確保も容易なんです。そういう人員確保と人員の配置の合理性があるということで山陽に統合すると。そのことによってサービスの内容、質が向上するというので妥当というふうに考えておまして、市としても統合することで赤磐市全体のサービスを充実させていくという方向になるだろうという判断のもとに今回の条例改正をするものでございます。

○委員（丸山 明君） はい、わかりました。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。

○委員（丸山 明君） はい。

○委員長（原田素代君） ほかになければ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そうしましたら、じゃあ、次の一般会計補正予算に入ってください。

○保健福祉部長（石原 亨君） それでは、資料の3ページの下段のほうでございます。

(2)平成27年度赤磐市一般会計補正予算（第4号）についてでございます。

まず、今回の補正につきましては、主に決算見込みによる減額でございます。

まず、民生費からでございます。

①でございます。臨時福祉給付事業の給付金の減額ということで上げております。事業費がほぼ確定したということから1,530万円を減額するというものでございます。こちらは、1人6,000円を支給するというものでございます。

2番目は、子育て世帯臨時特例給付金給付事業の給付金の減額ということで、こちらも事業費がほぼ確定したということで230万円を減額しております。こちらは、1人3,000円を支給するというものでございます。

それから、③でございます。これは、新規事業になります。年金生活者等支援臨時給付金給付事業でございます。一億総活躍社会の実現に向け、賃上げの実現の恩恵が及びにくい低所得の高齢者を対象とした給付金を給付するというものでございます。高齢者ということで65歳以上の方になります。なお、市民税が課税されている者及びその扶養親族、生活保護受給者は除くということにしております。1人当たり3万円の5,500人を見込んでいますのでございます。これは全額繰り越しとさせていただきます。7月までの給付を予定しております。

それから、④、4ページに移ります。

④、⑤、⑥でございますが、こちらは特別会計繰出金の減額をしております。特別会計のほうで決算見込みを立てまして、それに伴いまして一般会計からの繰出金をそれぞれ減額としておるものでございます。

⑦でございます。地域活動支援センター事業等の委託料の減額というものでございます。決算見込みによるものでございます。ももっこ作業所、つつじ作業所ほかに委託料としてお支払いをするものでございます。当初見込みより利用者が少なかったということから減額としております。

⑧はレスパイトサービス拡大促進事業の補助金の減額でございます。こちらも決算見込みから減額としております。当初見込みより利用者が少なかったということでございます。

⑨特定疾患援護費の減額でございます。こちらも支給の対象となる方が少なかったということで減額といたしております。

⑩でございます。こちらは、新規で追加の補正をしております。保育所等利用者負担軽減に係るシステム改修委託料の追加ということでございます。こちらは、平成28年度から第3子以降保育料の無償化に向けたシステムの改修ということで129万6,000円を追加しております。こちらも全額繰り越しとして事業を進めてまいります。

⑪でございます。決算見込みにより児童扶養手当を減額させていただいております。

それから、⑫につきましても、ひとり親家庭等医療費の減額ということで、決算見込みによりまして減額とさせていただいております。

続いて、衛生費の関係でございます。

こちらは国民健康保険特別会計繰出金の減額ということで、熊山診療所につきましては115万8,000円の減額、佐伯北・是里診療勘定分につきましては3万7,000円のこちらは追加としておるものでございます。

続いて、5ページに参ります。

平成27年度赤磐市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）についてでございます。

まず、熊山診療勘定につきましては、1,764万2,000円を追加するものでございます。

こちらは歳入でC型慢性肝炎治療、インターフェロンフリー治療でございますが、患者の増加に伴う外来収入の増加、1,880万円を追加しております。もう一点、人事院勧告実施に伴い職員人件費を減額するというので一般会計繰入金を115万8,000円減額しております。

歳出につきましては、人勧に伴う職員人件費の減額で115万8,000円の減額、C型慢性肝炎治療患者7名分の医薬品代の追加ということで1,880万円を追加しております。

佐伯北・是里診療勘定分につきましては、101万6,000円を追加しております。

歳入では、人事院勧告の実施に伴い人件費を増額するというので一般会計繰入金3万7,000円を追加しております。それから、事業勘定の繰入金の追加ということで97万9,000円を追加しております。

歳出では、人事院勧告の実施に伴う人件費の追加3万7,000円、医療用の機械器具の賃借料の減額150万円、財源を調整するための予備費の追加247万9,000円としております。

続いて、平成27年度赤磐市介護保険特別会計補正予算（第3号）でございます。

保険事業勘定でございますが、1億9,903万7,000円を減額しております。

歳入では、介護保険料の減額で996万9,000円減額としております。

国庫支出金につきまして、6ページでございます。保険給付費の減額に伴う国庫負担金の減額、調整交付金は交付率が下がったということからの減額、また地域支援事業費の減額に伴う地域支援事業交付金の減額など合わせて5,969万7,000円の減としております。支払基金交付金につきましても、保険給付費や地域支援事業費の減額に伴うものでございます。6,063万8,000円の減額としております。県支出金につきましても、地域支援事業費の減額に伴う交付金の減でございます。一般会計繰入金につきましても、保険給付費の減額、地域支援事業費の減額などによる減額としております。3,244万9,000円の減でございます。雑入では、地域支援事業の利用負担金の減額ということで119万8,000円の減としております。

歳出でございます。

総務費では、人事院勧告実施に伴う人件費の減額、介護認定審査会の会費の減額、趣旨普及費の減額などで476万1,000円の減としております。保険給付費では、施設介護サービス給付費の減額が大きく、他の介護サービス給付費の減額、介護予防サービス給付費の減額等合わせて、2億838万円の減としております。地域支援事業費では、通所型介護予防事業、お達者塾でございますが、こちらの費用の減額で977万円の減としております。介護保険給付費の支出に備えまして介護保険財政の健全な運営に資するため、介護給付費準備基金積立金、こちらを2,002万3,000円追加をいたしております。予備費で財源を調整するため、385万1,000円追加をいたしております。

続いて、平成27年度赤磐市訪問看護ステーション事業特別会計補正予算（第2号）についてでございます。

こちらは、43万8,000円を減額としております。

歳入では、人事院勧告実施に伴い職員人件費を減額するというに伴いまして一般会計繰入金を43万8,000円減としております。

歳出では、サービス事業費で職員人件費、修繕料及び備品購入費を減額としまして、合わせて123万8,000円の減としております。財源を調整するため、予備費を80万円追加をいたしております。

以上が補正予算でございます。

○委員長（原田素代君） はい、じゃあここで一度切ります。

補正予算のところでの御質疑はよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） じゃあ、引き続きまして、一般会計をお願いします。

○保健福祉部長（石原 亨君） それでは、続きまして7ページでございます。

(6)平成28年度赤磐市一般会計予算についてでございます。

主な事業、新規事業について課別に上げさせていただいております。

まず、社会福祉課でございます。

臨時福祉給付金給付事業でございます。事業費を3,828万2,000円計上しております。消費税引き上げに伴い低所得者に対する負担の影響に鑑み、暫定的、臨時的な措置として給付金を給付するというものでございます。市民税が課税されている者及び扶養親族、生活保護受給者は除くということとしております。本年度、27年度6,000円を支給していたものを28年度は3,000円としまして、9,000人を見込んでおります。

それから、2番目でございます。年金生活者等支援臨時給付金給付事業でございます。事業費として2,100万円を計上しております。一億総活躍社会の実現に向け、賃上げの実現の恩恵が及びにくい低所得の障害、遺族基礎年金受給者を対象とした給付金を給付するというものでございます。なお、市民税が課税されている者及びその扶養親族、生活保護受給者は除くということとしております。1人当たり3万円の700人を見込んでいるものでございます。

この2つの給付金につきましては、10月ごろの給付を予定しております。

3番目でございます。つつじ作業所改修事業でございます。事業費2,600万円を計上しております。障害者の地域活動支援センター事業を実施しているつつじ作業所の屋根、防火壁などを含む全体的な修繕工事を実施し、作業所の安全性を確保するというものでございます。施工監理費100万円、工事請負費は2,500万円を予定しております。

次に、あかまつ荘改修事業でございます。事業費を5,300万円予定しております。施工監理費を340万円、工事請負費は4,960万円を予定しております。施設の長寿命化を図り、吉井地域の在宅サービス提供体制を確保するため実施するものでございます。28年度は本体の改修工事を施工するというものでございます。現在、電気設備、空調設備等の故障で使いたくても使えないという部屋もございます。車でいえば、片輪パンクしても無理やり走っているような状況もございます。このたびは、今後の運営に支障が出ないように改修工事を施すものでございます。

続いて、自立支援給付費事業でございます。事業費としまして7億3,357万9,000円を計上いたしております。障害者が地域で自立した生活が送れるよう自立支援給付を中心とした総合的なサービスを提供するというものでございます。利用者の増加によりまして5.2%の増として計上しております。

続いて、8ページでございます。

障害児施設支援給付費事業でございます。事業費9,927万6,000円を計上しております。障害児のための施設を利用し、通所によるサービスと医療を提供するというものでございます。利用者の増加により89.5%の増を見込んで計上しております。施設としましては、こぶしの家とかぐんぐんというような施設が市内にはございます。

続いて、生活保護の扶助費でございます。事業費として2億4,330万6,000円を計上しており

ます。生活保護法に基づき生活に困窮する者に対してその困窮の程度に応じた必要な保護を行うというものでございまして、前年度比6.6%の減としております。94世帯123人を見込んでおります。

続いて、子育て支援課の関係でございまして。

放課後児童クラブの補助金でございまして。事業費1億1,328万7,000円、15クラブに補助金を助成するということとしております。子育て支援新制度のもと各種加算が拡充されたことや児童クラブ利用児童数の増加に伴いまして、33.8%の増を見込んで計上しております。

続いて、保育園運営事業でございまして。事業費12億2,191万円を計上しております。私立保育園10園の保育委託料と延長保育、一時預かり、休日保育、障害児保育などの特別保育に係る補助金を計上しております。子育て支援新制度のもと各種加算が拡充されたことや利用園児童数の増加によりまして、9.0%の増として計上しております。

続いて、赤坂地域の統合保育園整備事業でございまして。平成29年4月の開園を目指し、本年度は園舎の建築工事や備品整備に係る経費を計上しております。

続いて、桜が丘東3丁目保育施設整備事業でございまして。こちらは、当初予算の計上はございません。桜が丘東地域で増加している保育需要に応えるため、公募により選定された事業者により市有の保育園用地を無償貸し付けし、保育施設を整備、運営させるもので、県や事業者との協議、調整を行うということといたしております。

続いて、介護保険課の関係でございまして。

地域包括ケアシステム構築促進事業でございまして。事業費204万8,000円を予定しております。高齢者が住みなれた地域で自立した生活が送れるようサービス基盤の強化、社会資源の有効活用等地域住民、各種団体等が実施する活動を支援するもの、また中山間地域において夜間、深夜、早朝の訪問系サービスを充実させるため、その時間帯にサービスを提供した事業者により補助金を交付するというものでございまして。

9ページでございまして。

介護保険特別会計繰出金、保険事業勘定分でございまして、6億5,052万4,000円を計上しております。介護保険給付費及び介護予防事業費の12.5%の額、包括支援事業費の19.5%の額、介護保険事業に係る事務経費及び介護保険料負担軽減に係る国、県、市の負担額を繰り出すというものでございまして。介護保険事業費が伸びたことに伴いまして、4.3%の増として計上しております。

続いて、健康増進課の関係でございまして。

旧市民病院跡地活用に係る基本構想策定事業でございまして。事業費594万円を予定しております。本事業は平成27年度から平成28年度までの債務負担事業でございまして、旧市民病院跡地において小規模多機能居宅介護、ショートステイ及び介護予防の3つの機能を持つ複合施設をどのように整備活用していくかを基本構想としてまとめるというものでございまして。

続いて、赤磐市健康増進計画策定事業でございます。事業費451万8,000円を予定しております。本事業は、健康増進法第8条第2項の定めにより策定されました現赤磐市健康増進計画が平成28年度末で終了するということから、平成29年度から平成38年度まで向こう10年間の計画を策定するものでございます。中間年の33年度に見直しをするということとしております。

続きまして、国民健康保険特別会計繰出金でございます。1億6,164万4,000円を計上しております。熊山診療勘定につきましては、1億2,429万3,000円、前年度比2.4%としております。佐伯北・是里診療勘定は、3,735万1,000円、前年度比21.4%として繰り出すことといたしております。

続いて、子ども医療費事業でございます。事業費2億3,626万4,000円を計上いたしております。子育て世帯の経済的負担の軽減と子供の健康維持を目的として平成28年度から新たに高校生等を助成対象に加えることとし、保険診療に係る自己負担額を3割から1割に軽減するというものでございます。8.0%の伸びを見込んで計上しております。名称を子ども医療費事業と変更いたしております。

○委員長（原田素代君）　じゃあ、ここまでで委員の皆さんから御質疑がありましたらお願いします。一般会計分の。

はい、丸山委員。

○委員（丸山 明君）　生活保護なんですけど、前年度比6.6%というふうにマイナスで見られるんですけど、それ何かこういう見通しがあるということでしょうか。

○社会福祉課長（国正俊治君）　はい、委員長。

○委員長（原田素代君）　はい、国正課長。

○社会福祉課長（国正俊治君）　まず、生活保護の世帯、人員が減ってる一番の原因は、やはり景気がよくなってきて仕事がふえてきていることが一番です。もちろん、傷病世帯とか高齢世帯で稼働することができない方はなかなか卒業というのは難しいんですが、稼働年齢であるその他世帯の方々が就職することによって自立していくことが一番大きいことだと思います。先ほどハローワークのほうから有効求人倍率なんかの数字もできたようです。岡山のほうでは1.8とかというぐらいの倍率ですし、和気のほうは少し低いんですけど1.3か1.4ぐらい、済みません、ちょっとこれ正確な数字今手元にないんでわかりませんが、仕事が、求人がいっぱいあるのが一番だと思います。

また、もう一つは、我がほうのケースワーカーがその方々の問題をしっかり把握して、しっかりした援助方針を立てて指導してきたことによるものです。

ということで、減る見込みといたしております。以上です。

○委員（丸山 明君）　はい、わかりました。

○委員長（原田素代君）　よろしいですか。

○委員（丸山 明君）　はい。

○委員長（原田素代君） ほかの委員さんからもしあれば。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） 1つ、この間お聞きできると思ったんですけど、放課後児童クラブでとよたキッズの視察に行かせていただいて、施設整備、修繕のことは結局どうなりましたでしょうか。

○子育て支援課長（国定信之君） 委員長、子育て支援課国定。

○委員長（原田素代君） はい、国定課長。

○子育て支援課長（国定信之君） 昨年10月にとよたキッズのほうの視察をしていただきまして、そのときにお話をして、その後運営委員会のほうと協議をしておるんですけど、運営委員会の御希望によりまして改築じゃなくて建てかえということをお要望いただいております。ということで、改築となると補助金のほうも必要になるということで今年度補助金の要望のほうを県、国のほうへ出していきたくて思っております。それで採択をされますと、来年度建てかえが実施できるということで、少し時間はかかるんですけど、一応運営委員会とも協議をしてそういった方向で進めていきたくて話をしております。

以上です。

○委員長（原田素代君） 来年度建てかえ。

○子育て支援課長（国定信之君） 29年度に建てかえになります。

○委員長（原田素代君） そうなるわけですね。

ほかにはよろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） じゃあ、引き続き最後の特別会計お願いします。

○保健福祉部長（石原 亨君） それでは、9ページの下段でございます。

平成28年度赤磐市国民健康保険特別会計予算についてでございます。

まず、熊山診療勘定分でございます。

予算総額を5億197万5,000円、前年度比36.6%の増としております。これは、平成27年度から始めましたC型慢性肝炎治療、インターフェロフリー治療でございますが、これを行うため医薬材料費が増加したことによるものでございます。一般会計繰入金につきましては、2.4%の減としております。

主な事業、新規事業ということでございますが、積極的にC型慢性肝炎治療を行ってまいります。予算としては20人の医薬品代を見込んでおります。

次に、各種健診、企業健康診断、人間ドック等検査業務に積極的に取り組んでまいります。地域に根差した家庭医の役割を果たしていきますということで、しっかり取り組んでいきたくて思っております。

佐伯北・是里診療勘定でございます。

予算総額を2億1,006万3,000円としております。対前年度比11.7%の増としております。これは、診療業務に支障が出ないよう佐伯北診療施設の屋根、外壁、トイレなど最小限度の修繕工事を施工するというに伴うものでございます。

主な事業、新規事業としまして、本年1月から試行で実施しておりました日曜診療を4月から本格的に実施して、患者の利便性向上に努めてまいります。

2番目に、佐伯北診療所の屋根、外壁、トイレ等の修繕工事を行い、患者に優しい診療施設にしてまいりますということで、事業費は3,300万円を見込んでおります。設計施工監理費として320万円、工事請負費2,980万円を予定をいたしております。

それから、平成28年度赤磐市介護保険特別会計予算についてでございます。

保険事業勘定につきましては、42億9,188万5,000円、対前年度比1.9%の増として計上しております。要介護認定者数、各種サービス利用者数とも増加を見込んでいるというものでございます。

主な事業、新規事業としましては、在宅医療・介護連携推進事業は地域支援事業の包括的支援事業の活動の一つとして位置づけ、実施してまいります。生活支援体制整備事業につきましても、地域支援活動の包括的支援事業の活動の一つとして位置づけ、生活支援等サービス体制の整備、関係者のネットワークづくり、生活支援コーディネーターの配置、協議体の設置などを行ってまいります。

11ページに参りまして、地域ケア会議推進事業についても、地域支援事業の包括支援事業の一つとして位置づけまして、個別地域ケア会議を開催して、地域課題の把握やケアプラン等について検討し、住民の福祉意識やケアマネジャーの能力向上に努めてまいりますということでございます。

サービス事業勘定でございます。予算総額を2,641万1,000円としております。前年度比5.4%の増を見込んでおります。

主な事業、新規事業でございますが、要支援1、2の方のケアプラン作成について、月480人を見込んでおります。そのうち155人につきましては、民間居宅介護支援事業所へ委託することといたしております。

続いて、平成28年度赤磐市訪問看護ステーション事業特別会計予算についてでございます。

予算総額を3,227万8,000円としております。前年度比33.4%の減といたしております。

主な事業、新規事業では、赤磐医師会病院や民間医療機関と連携し、在宅医療ニーズに的確に対応してまいるといふこととしております。

以上が特別会計でございます。

○委員長（原田素代君） 特別会計の部分についての御質疑がございましたらお願いします。よろしいでしょうか。

○副委員長（福木京子君） 一つだけ。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員、どうぞ。

○副委員長（福木京子君） 10ページの佐伯北診療所の関係で、27年度に耐震診断をしてオーケーということで今回こういう最小限の修繕ということで。最小限の修繕でここは何年ぐらいの見通しで。余り聞かんほうがいいんですかね。

○委員長（原田素代君） 見通し。

○副委員長（福木京子君） うん。これが最小限度の修繕工事ということで、そういう状況なんですけど、その辺深く追及せんほうがいいのかもわからない。

○委員長（原田素代君） いやいや、聞きたいことは聞いてください。

○副委員長（福木京子君） いいですかね。またちょっとその辺はどう考えとんかな。耐震診断はだからオーケーだったからね。説明がされて、それで最小限のとりあえず修繕しようというこの分ですね。もうちょっと説明を願えたらと思いますけど。

○委員長（原田素代君） もうちょっと真意をお伝えになったほうがいいんじゃないかな。

○副委員長（福木京子君） その辺の見通しを、考え方。

○委員長（原田素代君） 診療所をずっとやるんですかということですか。

○保健福祉部参与（岩本武明君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、岩本参与。

○保健福祉部参与（岩本武明君） 耐震診断の結果につきましては、委員会のほうでも御報告させていただきました。今回のやろうとしていることは、あそこの雨漏りがしてる場所がありまして、そういったものを防ぐための屋根の塗装とか外壁の修繕、そういったものをやらせていただくというものでお願いしたいと思っております。

○委員長（原田素代君） 聞きたいこと言って。

○副委員長（福木京子君） 言えない。

○委員長（原田素代君） はい、どうぞ、福木委員。

○副委員長（福木京子君） ここで余り聞いてもいけんから、またやります。いいです。

○委員長（原田素代君） そうしましたら、ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そうしたら、じゃあ、執行部からのほうの提案は以上で終了とさせていただきますが、あとその他になるんでしょうか。

はい、お願いします。

○市民生活部長（新本和代君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） それでは、済みません、赤磐市過疎地域自立促進市町村計画素案の策定計画につきまして御説明をさせていただきたいと思います。

○委員長（原田素代君） 新本部長、済みません。あとどのぐらい執行部のその他があるのか

だけ教えていただけます。

○保健福祉部長（石原 亨君） もう一件、買い物の件を一番最後に。

○委員長（原田素代君） じゃあ、その2つだけですね。はい、わかりました。

じゃあ、新本部長からお願いします。

○市民生活部長（新本和代君） 1月の厚生常任委員会で御説明させていただいたところですが、過疎地域自立促進特別措置法の執行期限が平成33年3月31日まで5年間延長されたことに伴いまして、岡山県の過疎地域自立促進方針に従って市の計画素案の策定作業を進めてきたところがございます。

本市の素案につきましては、パブリックコメントを平成28年1月27日から2月5日まで実施したところがございます。いただいた御意見は11件ございました。いただいた御意見につきましては、お配りした資料に記載させていただいております。御意見と市の考え方を書いております。

過疎地域自立促進市町村計画は、過疎対策事業債の適用根拠となる計画でありますので、過疎地域事業債の適用が想定される事業を盛り込んでおります。パブリックコメントでいただいた御意見の個別事業の実施についての御意見は、それぞれの事業計画等の中で検討することになっております。また、過疎計画実施計画につきましても今後策定することとなっておりますので、よろしく願いいたします。

なお、赤磐市の過疎地域自立促進市町村計画につきましては、3月議会に上程させていただきますので、よろしく願いいたします。

それから、もう一つ、1件、御連絡があるんですけど、第2次赤磐市総合計画実施計画の策定に関しましての御連絡でございます。

実施計画につきましては、現在策定を進めているところがございます。今後の予定といたしまして、2月18日、明日でございますが、議会全員協議会でお配りさせていただきます平成28年度の当初予算案の施策概要とあわせて実施計画につきましてもお配りさせていただく予定でございますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○委員長（原田素代君） ということですが、皆さん、お手元にありますよね、このパブコメの報告っていうの。

何か御質問はありませんか。

○委員（丸山 明君） ちょっとだけ。

○委員長（原田素代君） はい、丸山委員、どうぞ。

○委員（丸山 明君） これの概要を書いとるものなんですけど、過疎地域自立促進市町村計画ですね。これは、もともとは、そうすると国のほうからのもう一つの大きなプランが出て、そん中で全国的にこういうことをつくりなさいと、今時代の要請はこういうふうなことがある

よということで、私どももこれは28年度から32年度までのものをつくったというふうなことでございますね。済みません、それだけ知りたかった。

○市民生活部長（新本和代君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、新本部長。

○市民生活部長（新本和代君） もともと過疎計画というのはございまして、本来でしたらもう切れるところだったんですけれども、5年間延長になったということでさらに新たに補足、追加したりとか、修正したりして、新たな計画、県のほうから方針も示されましたので、赤磐市版の計画を今つくっているところでございます。

○委員（丸山 明君） はい、わかりました。ありがとうございます。

○委員長（原田素代君） じゃあ、ないようでしたら、次の報告をお願いします。

○社会福祉課長（国正俊治君） 委員長。

○委員長（原田素代君） はい、国正課長。

○社会福祉課長（国正俊治君） 済みません、資料はないんですが、買い物支援・見守り事業について現在の状況を御報告いたします。

この事業につきましては、9月補正で地方創生先行型交付金を活用した事業として計上したものでございます。9月の委員会では、今マスコミ等で注目されている移動販売の事業者さんをイメージして御説明したところでございます。

いろいろ調査をいたしましたところ、そちらのほうの事業者さん、岡山でもやられているんですが、販売拠点からの距離が遠いという問題がございます。赤磐市では中北部をイメージしていきまして、そちらの事業者さんでしたら片道約1時間半ぐらい移動がかかります。正味7時間ぐらいの販売時間のうち3時間が移動時間にとられて4時間程度となりまして、その中で商業ベースでの販売は困難であろうということがわかりました。

また、それとは別に商工会さんとちょっと協議をいたしまして、事業参入の意向のある気配のほう、状況のほうを探ってみました。実際のところ、会員さんの中で参入の見込みというのがちょっと見込めないなというような状況があります。

さらに、地域で頑張っておられる団体が実は中北部にはございます。そちらとの十分な配慮をする必要があるというのも答弁の中でもさせていただいているところですけど、やはり他のエリアから新たな事業者を導入することでエリアが競合して悪影響を及ぼすというようなことが考えられます。

このことから考え方を大幅に変えまして、この対象地域で頑張っておられる市民団体さんにこの事業をやってもらおうという方向に変えたいと思っております。そして、そこに移動販売車両のほうを無償で貸し付けまして、事業を展開していただこうと考えております。

具体的な事業者なんですが、まず吉井地域のまちづくり夢百笑さん、これが吉井地域とその周辺ということで、その周辺は赤坂地域の笹岡ぐらいまでその周辺というようなイメージをも

っております。それから、熊山地域は小野田ふれあい市場、英国庭園の近くでございます。そちらのほうが小野田地区を中心に熊山地域を。その周辺といたしましては、赤坂地域の軽部地域のあたりまでエリアが延びればいいかなというふうに考えております。どちらもこの2つの事業者さんは今市のほうの配食サービス事業なんかもお世話になっておまして、頑張ってくださいています。地域住民の方が課題をみずから見つけて、その皆さんの力で問題解決をやるうとしておられる団体で、一定の成果も上げられているということでございます。このような活動を支援するのに合わせてこの事業をやっていききたいというふうに考えて、そのようなことを選定したいと思っております。

なお、この事業もそれでやれるんですけど、まだまだ課題がたくさんございます。2年間の試行事業としてまずやってみて、さまざまな問題を整理してまいりたいと考えています。2年終了前にはさらに事業を見直しして、次の事業に発展させていききたいと考えております。

事業費のほうですが、総額で800万円でございますが、移動販売の車両は360万円程度を2台にいたしまして、あと若干残った数十万円につきましては、その他の経費に充てさせていただきます。事業費のほうを使いたいと思っております。

それから、9月に御説明しましたスマートフォンによるアプリケーションを開発して、見守りアプリによって報告をしようというふうなことも考えておりました。これも現地で移動販売するところの調査をしましたが、とてもスマホを操作する時間はないんです。販売員さんは、高齢者のお宅まで、例えばジャムパンと巻きずしを持ってきてと言ったら、それを持って縁側まではって出てきたおばあちゃんのところへ走ってるんです。そういう状況の中でスマホを操作する時間はありません。ですから、そのあたりにつきましては、当面紙ベースで報告いただきまして、1回の見守りに対して100円の委託料を支払うという形で事業のほうをしたいと思っております。

済みません、今回は口頭で言わせてもらいましたんですけど、整理できましたらまた資料のほう、紙ベースで、紙に落として示していきたいと思っております。一つそれで御理解のほうよろしく願います。

以上です。

○委員長（原田素代君） ちょっと早口で説明がありましたけど、大体理解はできましたでしょうか。

初めての試みなので、やる前から試行錯誤が満載でちょっと修正もかかるということですけど、非常に大きな800万円の予算を有効に使っていただくということなので、慎重に調査をした結果が提案されたということだそうです。何か御質問はよろしいですか。

○副委員長（福木京子君） ちょっといいですか。

○委員長（原田素代君） はい、福木委員。

○副委員長（福木京子君） 正式な事業名というのはどうじゃったかな。買い物支援事業、正

式な事業名は。

○社会福祉課長（国正俊治君） はい。

○委員長（原田素代君） はい、国正課長。

○社会福祉課長（国正俊治君） 事業名とすれば、赤磐市買い物支援・見守りモデル事業というような名前にいたしまして、実施要綱のほうを告示いたしましてやります。2年間の試行事業として、2年後にはさらに整理されたい事業にして、モデルをとった事業に育ててまいりたいと思っております。

以上です。

○委員長（原田素代君） よろしいですか。

○副委員長（福木京子君） はい。

○委員長（原田素代君） じゃあ、ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） そうしましたら、委員の皆さんからのその他というのがございましたらどうぞ。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） 執行部もよろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（原田素代君） 皆さんの御協力が功を奏しまして、何と5分前に終わるというすばらしい委員会になりましたが。

そうしましたら、じゃあ最後に、内田副市長のほうから閉会の御挨拶をお願いいたします。

○副市長（内田慶史君） はい、委員長。

○委員長（原田素代君） はい、副市長。

○副市長（内田慶史君） 本日は、第2回の厚生常任委員会ということで、各部局の平成27年度の事業の進捗状況、また3月議会に上程予定であります議案等々につきまして協議を賜りましてまことにありがとうございました。

今月の25日からいよいよ3月議会も開催となります。執行部におきましてもそれに向けてさらなる準備をしてまいりたいというふうに考えておりますし、また多くの議案審査をいただくこととなりますけれども、その御指摘をいただきますように丁寧な説明等々に心がけてまいりたいというふうに思いますので、今後ともどうぞよろしく願いをいたしたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。

以上でございます。

○委員長（原田素代君） じゃあ、お疲れさまでございました。

以上で終わります。

午前10時54分 閉会